

ホワイエ *Foyer* イエ

New Union of Architects & Engineers

Tokyo **653**

2026.9



2026年9月1日（毎月発行）定価 200 円 653 号通巻第 653 号第 56 巻第 9 号発行/新建築家技術者集団東京支部
発行人／杉山昇 〒162-080 東京都新宿区山吹町 361 番地 誠志堂ビル 3 階 tel.03-3260-9810 fax.03-3260-9811
ホームページ <https://nu-ae.com/tokyo/> E-mail shinken-tokyo@group.email.ne.jp

- | | | |
|-----------|---------------------|-------|
| 03 | 平和と団地の夏祭り | 千代崎一夫 |
| 04 | 9/5 まちづくり市民フォーラムの報告 | 山下千佳 |
| 08 | 鋸屋根に魅せられて | 吉田敬子 |
| 10 | アジアンニュース No.44 | TN |



各地でのイベントや行事情報、ホワイエの原稿も随時募集しています。

下記アドレスまで原稿をお寄せください！

foyer@shinken-tokyo.orgp.emai.ne.jp

今月の表紙 提供：山下千佳

8/23 町田市野津田の古民家を再生した浮輪寮で丸谷博男さんが主催した左手のフルーティスト 畠中秀幸さんピアノスト・シンガーソングライター小川紗綾佳さんの演奏会に行きました。

畠中さんは脳卒中を患い、手や肺などの右半身の機能を失いながらも、建築家・左手のフルーティスト・指揮者として活躍中の方で、木製フルートの響きは浮輪寮の空間を包みこむように響いていました。

Event Information

◎は新建主催行事 ◆は会員及び交流団体の行事

東京支部

- ◎09/05 土 13:30 まちづくり市民フォーラム @板橋区立グリーンホール 2 階ホール
<https://nu-ae.com/tokyo/260905forum/>
- ◎09/17 木 16:00 東京問題研究会 @新建事務所
- ◎09/18 金 19:00 第五回「新建・みんなの知恵袋」 @新建事務所
- ◎09/30 水 18:30 第 6 回 常任幹事会 @新建事務所
- ◎10/19 月 18:30 第 2 回 東京支部幹事会 @新建事務所



全国

- ◎09/12 土-13 日 全国幹事会 板橋区立グリーンホール&文化会館
- ◎10/03 土-04 日 建築とまちづくりセミナー in 埼玉 @埼玉会館
- ◎10/17 土 19:00 マンションサポート研究会 第 13 回公開講座 @ZOOM
■ <https://nu-ae.com/261017mansion-koza/>
- ◎10/29 金-31 土 復興支援会議ブロック会議-能登半島視察
- ◎11/05 木 東松島市あおい地区 自治会長の小野さん講演 一木会+復興支援会議



会員及び交流団体 詳細は（ ）に記載された会員へお問い合わせください。

- ◆09/11 金 18:30-20:30 「新たな首都直下地震被害想定と防災庁設置について」平田直氏 (山下)
@エデュカス東京 7 階 大会議室
- ◆09/23 水 13:00-17:00 シンポジウム「都市の緑は誰のものか」@明治大学駿河台キャンパス
- ◆09/26 土 12:45- 象地域設計 50 周年 (佐伯) @ 足立区勤労福祉会館 2 階第一ホール
- ◆10/03 土-04 日 第 18 回地方自治研全国研究集会 in 広島 (千代崎)
- ◆10/24 土-25 日 全国災対連 全国交流集会 in 新潟
- ◆11/07 土 10:00-16:30 週末防災ひろば SETAGAYA BOSAI PARK 世田谷区役所新庁舎 (井上)

平和と団地の夏祭り

千代崎一夫

この数年、夏の終わりには板橋区にある「ゆりの木夏まつり」に家族と行っています。

米軍基地のあり方が問われている中で、団地ができた歴史をはじめに紹介します。

1973 年に米軍から「グラントハイツ」が全面返還された後、その広大な跡地(約 186 ヘクタール)を利用して、現在の光が丘公園や大規模な団地群を一体的に整備する「光が丘パークタウン」の計画が立てられました。

第 1 期開発(1983 年入居開始)として、区境を挟んで建設されたのが板橋区側「ゆりの木通り北住宅」と練馬区側「ゆりの木通り南住宅」の団地です。かつて日本陸軍の戦闘機が飛び立ち、戦後はアメリカ風の平屋の家族住宅が建ち並び、星条旗が掲げられていた「グラントハイツ」の敷地そのものにあたります。

旧住宅公団が 1983 年分譲した「ゆりの木通り北住宅」は 9 棟、446 戸で 2016 年の総会で「百年住宅宣言」を採択されました。UR の賃貸棟が 6 棟、341 戸が隣接していて、分譲と賃貸で「光が丘ゆりの木北自治会」をつくっています。

その自治会が主催して、恒例の「第 41 回ゆりの木夏まつり」が 8 月 29 日・30 日に開催されました。フィナーレは、ゆりの木スペシャルオーケストラの 60 分の演奏で、今年も盛り上がりしました。「第九」はバンドとのコラボレーションで、まさにゆりの木団地バージョン。ベートーベンもビックリ、団地住民を中心にした合唱団 68 名が歌いました。「天国と地獄」「モルダウ」などが演奏され、アンコールは、夏祭りにオーケストラが出演するようになって 13 年、最初から出演していたチェリスト奏者さんが編曲した「ふるさと」と「威風堂々」でした。

夏まつりは実行委員会をつくって準備され、子ども実行委員会が開催のポスターを作成し、当日は「お楽しみコーナー」(釣り堀や輪投げなど)を担当していました。

コミュニティと文化を通して、次の世代に受け継がれていく団地の姿を感じました。



9月5日(土)板橋区立グリーンホール2階ホールで「まちづくり市民フォーラム」を開催しました。昨年の「防災デー」に続いての企画となりました。

参加者は72名、個人・団体の発表は16組、展示と資料配付は17組と会場は賑やかになりました。

16団体が5分ずつ報告——各地の運動を共有

午前中のまちづくり運動交流会で13組、午後の意見交換会で3組が再開発やまちこわし、住環境、地域のまちづくりなど、さまざまな地域で取り組んでいる活動を紹介されました。

一つひとつの報告は5分間と短いものでしたが、地域によって抱えている問題は違っていても、「住民の声が十分に聞かれないまま計画が進められる」「ある日突然、都市計画が示される」「行政と民間事業者の合意が先行し、住民が後から対応を迫られる」といった共通する問題が浮かび上がりました。

参加者からは、「様々な地域のまちづくり運動を学ぶことができて有意義だった」「お互いの活動が見えてよかった」といった感想が寄せられました。互いの経験を知り、つながることの大切さを実感する交流会となりました。



再開発の仕組みと「誰のためのまちづくりか」

岩見良太郎さんは、「ピッコロ・スクエア再開発と高島平再開発問題を考える」と題して講演しました。はじめに、都市再開発の仕組みを説明し、再開発事業がどのような採算構造で成り立っているのかを具体的な数字を示しながら解説しました。大山のピッコロ・スクエア再開発については、事業費が増加する一方で、補助金や保留床処分金などによって事業を支える構造を示し、再開発が進めば必ず地域や地権者に利益がもたらされるわけではないことを指摘しました。また、再開発が秘密裏に、小出しに進められ、一度決まると後戻りにしにくくなる問題にも触れました。

その一方で、徳島市西新町やさいたま市大宮東口など、住民の運動によって再開発の中止や都市計画決定の撤回につながった事例も紹介されました。



高島平については、「タワマンは誰が望んだのか」という問いを投げかけ、地区計画は本来、地域住民の声をもとにつくられるべきものだとして強調しました。神戸市真野地区や世田谷区太子堂地区の事例から、住民自身が地域の将来を考え、話し合いながらまちをつくっていく「住民主体のまちづくり」の可能性を示しました。

参加者から「人が中心にいるまちづくりを」「金優先の社会にうんざりしている」といった声が寄せられました。

まちを分断させないために

続いて西本千尋さんは、「学びから始まる～私たちのまちづくり～」と題して、川越、大山、赤羽、松戸などでの経験を交えながら、「共同性」をキーワードにお話しました。

川越の町並み保存や商店街の活動などを紹介し、住民、商店街、専門家、自治体職員などが話し合い、新たな活動や仕組みをつくってきた過程を紹介しました。そこでは、まちの変化を一方向的に受け入れるのではなく、「変化の仕方を自分たちで協議して決めたい」という住民の姿勢が重要な役割を果たしています。

現在の「住民参加」については、制度上の参加の機会が広がっただけでは十分ではないと指摘しました。行政が用意した場に住民が参加し、意見を述べるだけでは、計画の核心部分に声が届かない場合があります。さらに、再開発がスピードアップすることで、住民同士が出会い、情報を共有し、「私たち」という関係をつくる時間そのものが失われてしまうという問題も提起されました。

板橋区大山の住民の「まちを分断させない」という言葉を手がかりに、西本さんは、道路や建物ができるかどうかだけでなく、バラバラにされた住民の声をもう一度集め、その後も地域で暮らし続ける人々の関係をどう守るのが重要だと話しました。

さらに、居住支援の経験から、住宅は単なる「箱」や「商品」ではなく、家族、福祉、都市をつなぐ生活の基盤であることを指摘し「住宅を得ることから、地域の主体になることへ」という視点を示しました。講演の最後に、住民から学んだこととして、「去った人、新しく来た人との関係を切らない」「変化の仕方を自分たちで協議して決める」「ハードが失われても、関係を終わらせない」などを挙げました。

参加者から「言葉から街を見るという新しい発想に驚いた」「住む人に寄り添ったまちづくりを実践する若い方がいることに希望を感じた」といった感想が寄せられました。

暮らしの時間と人のつながりを大切にするまちづくりへ

二つの講演に共通していたのは、まちを建物や土地だけで捉えるのではなく、そこに暮らす人々の関係や、長い時間をかけて積み重ねられてきた暮らしを大切にするという視点です。

再開発では、事業の効率や経済性が優先されることで、住民の声や地域に蓄積された時間が置き去りにされることがあります。しかし、まちの価値は市場価格や大きな建物だけで決まるものではありません。



ん。そこで暮らし、働き、顔を合わせ、語り合ってきた人々の経験そのものが、かけがえのない地域の財産であることがわかりました。

マドリードとバルセロナから学ぶ——気候危機下のまちづくりと、市民がつくる都市

午前の「まちづくり運動交流会」の最後に、私（山下千佳）から「マドリード&バルセロナ—気候危機下のまちづくり」について報告しました。

私は昨年秋、マドリードとバルセロナを訪れました。今回の報告では、実際にまちを歩いて見てきたことをもとに、両都市が気候危機をはじめとする都市の課題に対して、どのようなまちづくりを進めているのかを紹介しました。

マドリードでは、「壊してつくる」のではなく、「活かして更新する」という都市づくりが印象に残りました。例えば、歴史的なアトーチャ駅の旧駅舎を保存しながら新たな用途も付け加えて活用しています。マンサナレス川沿いの「マドリード・リオ」は、約10kmにわたる線状公園として整備され、かつて高速道路が走っていた場所を地下化し、その地上を大規模な公園や公共空間として再生しています。自然、レジャー、文化が融合する都市空間となっています。

また、プラド通りでは車両交通を制限し、人を中心とした都市軸へと転換する取り組みが進められています。歴史的な建築や公園を残しながら、インフラや公共空間を組み替え、都市全体を一体的に考えていることが特徴的でした。

バルセロナでは、「道路を変えたのではなく、都市の価値観を変えた」という考え方が強く印象に残りました。その代表が「スーパースブロック」です。9つの街区を一つのまとまりとして捉え、外周の道路に車を集め、内部では車の通行を制限します。これまで車のために使われていた道路を、歩行者や自転車、子ども、高齢者などが過ごせる公共空間へと変えていきます。ベンチや植栽、遊び場、日陰などを設け、「移動するための道路」から「人が滞在する場所」へと道路の役割を変えていました。

こうした取り組みの背景には、単なる交通対策だけではなく、市民・環境・民主主義を軸に都市を考えるという考え方があります。「行政が決める」から「市民がつくる」へ、「観光都市」から「住み続けられる都市」へ、「移動のための都市」から「滞在する都市」へ——。さらに、環境やエネルギー、ケアや包摂まで含めて都市政策を考えていることも紹介しました。

もちろん、スペインと日本では都市の成り立ちや制度、社会状況が異なります。海外の事例をそのまま日本に持ち込むことはできません。しかし、そこから学べるのは、「何をつくるか」だけではなく、「どんな暮らしを大切にする都市にするのか」という価値観からまちづくりを考えることではないかと思います。

今回の報告について、参加者からは、「本来のまちづくりとは何かを考える良い機会になった」「市民が声を上げ、動くことが当たり前な社会にしていく必要がある」「日本の現実との違いに驚いた」といった感想が寄せられました。また、海外の事例を知ることによって、日本のまちづくりについて改めて考えるきっかけになったという声もありました。



岩見さんの「誰のためのまちづくりか」を問い、西本さんの人と人との関係や地域の「共同性」をどう守るのか、「誰がまちをつくるのか」という共通の問いでつながっていました。

アンケートでは、「いろいろな地域の活動を知ることができてよかった」という感想とともに、こうした活動を交流するだけでなく、今後は相談や連携につなげていく場が必要ではないかという意見も寄せられました。この声は、今後の新建の役割を考えるうえで、とても重要です。

日々の暮らしの困りごとを相談でき、地域の人たちが抱えている問題を聞き、計画や制度を一緒に読み解き、必要な情報を提供し、専門的な立場から対案を考え、一つの地域の経験を別の地域にも伝え、地域を越えて学び合い、つながることを支える。そのような「市民のまちづくり運動をつなぐプラットフォーム」として、新建が役割を果たしていくことが求められているのではないのでしょうか。

今回のフォーラムは、その可能性を感じる場となりました。交流を一度きりで終わらせるのではなく、学び、相談し、つながり、そして一緒に行動できる関係へと発展させていくこと。それが、これからの新建のまちづくり運動の一つの方向になるのではないかと思います。

最後に東京支部の企画として、象地域設計の若手の会員が運営などを担ってくれました。地域で頑張っている方々の発表、展示などを通して、またお二人の講演を聞いて、学び、感じたことも多いと思います。いろいろな取組みを経験する中で、新建の活動を明日につなげていって欲しいです。

スタッフで行った打ち上げは、準備の苦労を忘れて、楽しく爽快な時間になりました。

【発表・展示・資料配付をした個人・団体】

調布基地跡地留保地について考える市民の会
日比谷公園の歴史と文化をこよなく愛する会
中野サンプラ、旧区役所エリアを考える会
中野4丁目、6・7番再開発に反対する有志の会
都市型データセンターあり方検討会
みんなの緑を守るネットワーク

くらし・環境・歴史遺産を守る 86 号線住民の会（北区赤羽西）

特定整備路線補助 26 号線を考える会

住民参加のまちづくりを考える会@高島平

上板橋まちづくりを考える会

リースバックを考える会東京

戦争反対！憲法改悪を許さない オール板橋

代田宮前橋地域防災ささえ愛の会

大山問題を考える会

ニシオギ DRUNKer シンブン

阿佐ヶ谷の原風景を守るまちづくり協議会

加賀まちづくり協議会

築地市場跡地恩園再生学会

北区名主の滝の自然を考える会



新建東京支部 HP／9/5report

鋸屋根に魅せられて

愛知県一宮市 ③ 写真家 吉田敬子

愛知県一宮市で開催した「のこぎり屋根・魂の記録」写真展で、鋸屋根の写真を展示して頂いた「^{くずり けおり}葛利毛織工業株式会社」は歴史的景観を残す建物として、2020 年建築物 9 棟が国の有形文化財に登録されました。仕事場と住居が一緒という「職住一体」の経営形態を残しています。その 9 棟を紹介します。所在地は一宮市木曽川町の木曽川沿い玉ノ井地区
この地域は、明治初頭に^{けんめんこうしよくがすり}緋織物がはじまり、木綿緋、絹綿交織^{けんめんこうしよく}緋の産地でした。大正期は絹綿交織の織物生産が盛んでしたが、昭和初期には毛織物業が中心となりました。

「葛利毛織工業株式会社工場」1932 年（昭和 7）建設・木造平屋建瓦葺鋸屋根 2 連増築後 4 連
「事務所」1932 年（昭和 7）頃建設・木造 2 階建寄棟造棧瓦葺外観は下見板張の洋風
「主屋」1949 年（昭和 24）頃建設・木造 2 階建寄棟造棧瓦葺 女子寮使用職住一体工場
「離れ」1932 年（昭和 7）頃建設・家族住居木造 2 階建入母屋造棧瓦葺 1950 年頃 1975 年頃増築
「男子寮」1952 年（昭和 27）頃建設・木造 2 階建寄棟造棧瓦葺 1957 年頃増築
「旧浴場及び便所」1955 年（昭和 30）頃建設・切妻造棧瓦葺 1955 年増築
「土蔵」江戸末期、建築年代は不明 土蔵造 2 階建切妻造棧瓦葺
「原系倉庫」1948 年（昭和 28）頃建設・木造平屋建切妻造セメント瓦葺 外壁下見板張
「倉庫」1957 年（昭和 32）頃建設・木造平屋建切妻造セメント瓦葺 外壁下見板張

^{くずり けおり}葛利毛織工業株式会社 4 連鋸屋根工場



葛利毛織工業株式会社は、1912 年（大正元年）に創業しました。大正末期の力織機導入を契機に毛織物生産を開始しました。ジョンヘル織機という 1950 年頃に日本国内で普及した日本産の低速織機を扱い、他社には真似できない高付加価値のさまざまなテキスタイルを作っています。ジョンヘル織機は、50m を織るのに 3 日～4 日かかり手間もかかります。多くの機屋たちは近代化の中で、生産性の低いシャトル織機を廃棄してエアジェット織機の高速型の織機に変え生産性を求めました。しかし、葛利毛織工業はウール素材の風合いを最大限に生かした独自の道を選びました。結果、有名ブランドが品質を高く評価し世界中のデザイナーに指名される織物工場となりました。葛利毛織工業では 10 台のジョンヘル織機があり、鋸屋根から差し込む自然光の中で 1 台 1 台オリジナルなリズムで機音を刻んでいる姿は「産業遺産の証」と感動している私に「吉田さんの鋸屋根写真と同じですよ。」と微笑んだ、葛利毛織工業 4 代目社長の葛谷聡さんの笑顔は輝いていました。

写真は、鋸屋根工場のジョンヘル織機と、展示して頂いた鋸屋根写真と葛谷社長と筆者



NNA カンパサール 青い棚田に溶けこむ露天 ハノイから車で行ける温泉郷
2026 年 6 月 26 日

【連載】アジア温泉旅 第5回
絶景温泉探検家 鈴木 浩大

ベトナムは今、温泉ブームです。大都市の近郊には大型の健康ランドのような温泉テーマパークも次々と開業しています。「ベトナム」「温泉」というキーワードで検索すれば多くの記事がヒットしますが、せっかくのアジア温泉旅の連載です。二番煎じは避けたいところです。日本の温泉マニアが歓声を上げるような知られざる温泉郷を紹介します。

★棚田を眺めながら入浴できるチャムタウ温泉(筆者提供)

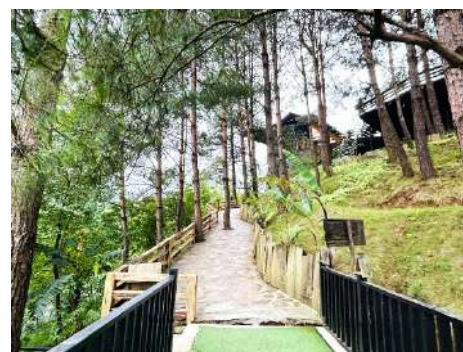


アジアニュースNo.44
(ベトナム中心) TN



■棚田の眺めが美しい温泉

今回紹介するベトナム北部のチャムタウ(Tram Tau、ローマ字読みでトラムタウでも通じる)は、首都ハノイから西へ 200 キロメートルにある高



原の町で、一般的なガイドブックで紹介されることはまずありません。

静かな隠れ家のようなたたずまいで、周囲には日本の田舎を思わせるような水田の風景が広がります。棚田と温泉のある山間部の風景から「ミニ・バリ」という愛称があるそうです。

★チャムタウはハノイから北西約200キロメートル、車で5時間ほどの距離(NNA作成)

温泉を備えたシティーホテルから素朴な日帰り温泉まで、いくつかの施設が町の周辺に点在していますが、一番のお勧めはそのものずばりの「チャムタウ温泉」です。

★露天風呂に出会う直前の光景(筆者提供)



平屋建てのレセプションで入浴料(約 700 円)を支払い、シースルーのエレベーターで3階まで上がります。松の木が並ぶ遊歩道を登っていくと、周囲には木造のコテージが並んでいます。下り坂に入ると視界が開けると、眼下に2段に分かれた温泉露天風呂と棚田が見え、その美しさに思わず声を上げてしまいます。

★日本の山里を思わせるような風景と露天風呂がマッチする(筆者提供)

露天風呂はレセプションと同じ高さにあるので、水平な歩道で両者を結んだら、もっと楽に到着できるでしょう。わざわざいったん高台に上らせて、全景を俯瞰(ふかん)できる場所に導くのは見事な演出なのかもしれません。

★写真の左手にも2つの露天風呂がある(筆者提供)



露天風呂に隣接する脱衣所で水着に着替えて入浴します。源泉は 45 度。2つの浴槽のうち、一つは 40 度以上と温かいですが、もう一方は体温程度の湯温です。石板を敷



き詰めた浴槽の周囲に大きな石を配しているため、岩風呂のような雰囲気です。肌に優しい温泉で、長湯を楽しめます。

★左の浴槽が温かく、右はぬるい。交互に入浴している人が多い(筆者提供)

■郊外の温泉ロッジに泊まる



せつくなので、町外れにある一軒宿の温泉ロッジ、チャムタウ・エコ・ガーデンリゾート温泉に宿泊しました。谷あいを見下ろす高台に建つ素朴な宿で、ちょうど欧米人らしき 10 人ほどの客が着いたところでした。

★山の景観にマッチしたレセプション棟(筆者提供)

外観は木造2階建てのように見えたが、レセプションは建物の3階に位置しており、1階と2階は本館(ホテル棟)の客室です。レセプションの奥に勾玉(まがたま)のような形のプールがあります。プールは2つに仕切られていて、一方は水で、もう一方が温泉浴槽でした。

★手前が温泉、奥が水。右奥にレセプション棟が見える(筆者提供)

私が訪れたのは土曜日。宿泊客も多そうだったので、チェックインして荷物を部屋に置いたら水着に着替え、すぐに温泉に向かいました。人が写り込まない写真を撮りたかったためです。

★温泉浴槽の左奥にはベトナム語の他、英語で「Hot Spring(温泉)」の表示がある(筆者提供)

透き通った温泉は1メートルほどの深さで、浴槽内に段が設けられているので腰掛けて入浴することができます。40 度前後の湯は気持ちよく、浴槽の縁に肘を寄せながら、山の端に沈む夕日を眺めてのんびりと漬かりました。

この間、欧米からの旅行者もベトナム人の宿泊客も誰もやって来ません。どうやら、宿に着いてすぐに温泉に入りたいという人などいないようです。宿の人に聞いたところ「ハイキングやバードウォッチングが目的」という人が多く、温泉が目当ての旅行者はそれほど多くないとのことでした。

【ココに注目！】温泉付きコテージ

海外で温泉付きの宿に泊まってみたい！ そう思ったことがある人もいるでしょう。いわゆるホテルタイプの宿でしたら、日本の温泉ホテルとあまり変わりませんが、アジアの田舎ではコテージタイプの宿をよく見かけます。どんな風に過ごすのでしょうか？⇒次号に続く



住む人・使う人の立場で、
住まいづくり、まちづくりを
すすめています。



共同建替「アリシア鳩ヶ谷」

〒124-0001
東京都葛飾区小菅4-22-15
TEL : 03-3601-6841
FAX : 03-3601-6944
E-mail : zo-3@jade.dti.ne.jp
<http://www.zo-3.info>

株式会社 **象地域設計**

新建築家技術者集団 憲章

建築とまちづくりにたずさわる私たちは、国土を荒廃から守り、かつ環境破壊を許さず、人びとのねがう豊かな生活環境と高い文化を創造する目的をもつ。

私たちはこのことを認識し、行動するための目標をかかげ、ここに憲章を定める。

- 1 建築とまちづくりを、社会とのつながりの中でとらえよう。
- 2 地域に根ざした建築とまちづくりを、住む人使う人と協同してすすめよう。
- 3 建築とまちづくりの優れた伝統を継承し、理論や技術の発展と創造につとめよう。
- 4 人びとに支持される建築とまちづくりの活動をすすめ、専門性を確立しよう。
- 5 建築とまちづくりに関連する国内外の広い分野の人びととの交流をはかり、連帯を強めよう。
- 6 建築とまちづくり、生活と文化、自由のために平和を守ろう。

住み続けられる



株式会社
まちづくり研究所

〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿 1-13-6 第二伊藤ビル 503
TEL : 03-5423-3470 FAX : 03-5423-3479

WHY?

え？

広告主募集中です！

新協建設工業株式会社

平和であればこそ建築はよろこび

本社 台東区台東2-25-10
東東京支店 江戸川区篠崎町3-1-3
台東支店 (台東) 台東区台東2-25-10
西東京支店 (多摩) 日野市神明4-22-13
大阪支店 堺市寺地町東4-2-11
石川支店 金沢市法光寺町207-4
広島支店 広島市安佐南区相田6-1-7

TEL03-3836-2011 FAX03-3837-8450
TEL03-3678-7471 FAX03-3678-7472
TEL03-3836-2017 FAX03-3835-7380
TEL042-584-7508 FAX042-584-7581
TEL072-229-2873 FAX072-229-2874
TEL076-257-2535 FAX076-257-2570
TEL082-872-1727 FAX082-872-1728